International Institute of Multi-cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 11　No. 2　2010 年　7 月

鷺の宮卓話

研究所長　太田敬雄

子どもの受け入れ場所の不足から「無認可保育園」の話題が時々出る。無認可という表現から、私達は無認可保育園は認可をされている保育園に劣るというイメージを持ちやすい。しかし、そうだろうか？それは大いに疑問だと思っている。確かに劣悪な無認可保育園の話題が取り上げられたことは何度もあったように思う。しかし、それが全てではないと私は確信している。

その確信の根底に文部省の認定を受けている大学・短大に長年働き、そこで「認定」とそれに伴う「助成金」確保のために、「教育」を二の次に考えるしかなかった苦い体験がある。認定を維持し、高い助成金を受けるためには、優れた教育を目指すことは到底できない。当時の文部省、今の文科省が示す平均的な水準を維持しないといけないのだ。高い水準の教育をしようと、例えば基準以上の教育陣を揃えようとすると、とたんに助成金は減らされる。そこに今日の日本の大学の水準が世界の中でどんどん下がって来ている理由がある。

少子化で大学の維持が厳しくなり始めた頃、文部省は新設の大学をどんどん認定し始めた。そうして大学が増えたあと、文科省は大学に次々と厳しい要求を突き付け始めている。今日の大学に働く者は教員であれ、職員であれひたすら文科省の要求に応え、少しでも多くの助成を得られるよう、あるいは助成金を減らされないよう汲々としている。「学生」は教育を受ける主役ではなく、文科省の条件を満たすための道具でしか無くなったかの感さえある。

10 年近く前、「榛名山麓みどりの大学構想」を打ち出した時、私の考えはまだ甘かった。「日本の大学である限り、やはり文部省の認可を受けるのは当然だろう」と考えていた。その構想が挫折して以来、私は方々の大学を非常勤講師として勤務しながら考え続けた。良い教育の場としての大学にはもちろん良い教育者と、良い教育環境が必要だ。しかし何千坪もの土地や様々な設備を整えた教室、何万冊もの本を揃えた図書館、そして体育館やグラウンド。さらには学生定員の維持。それらが優れた教育の場を造り出すのだろうか？なぜ一定数の学生に対して何人の教員が必要であると定義し、その水準を守らなくてはならないのだろうか？その背景に有るのは数字と見栄えでしかなく、教育の質などという目には見えない、そして成果が 20 年以上も先にならないと見えてこないことには全く関心が向けられないからに他ならないとの結論に私は達しつつある。

今、私は「無認可保育園」ならぬ「無認定大学校」の模索をし始めている。一言でいって、人を育てる大学である。「安中みどりの大学校」とでも名付けようか。文科省の認定を求めさえしなければ、必ず公認の大学よりも素晴らしい教育が出来る。四年間で日本の一般的な大学の修士課程に匹敵する研究者や、それを上回る教養人を育成できると確信している。土地も要らない。校舎も必要ない。必要なのは優れた人格者の教員と、大学で学ぶことを真剣に考えている学生が居れば良い。学生数を何名確保しなくてはならないなどと言う馬鹿げたことも気にする必要はない。久しぶりに私の血が燃え始めている。

■王媛さんの講演会「河童と稚児の交差～民俗世界の童」■

王媛さんは一橋大学大学院言語社会研究科の博士後期課程で日本の民俗研究を研究している若い研究者です。彼女は修士課程で日本の河童の研究をし、博士課程に入ってからも伝承民俗の稚児や童の研究をしています。九年間の日本での生活で、実に詳細に日本の伝承民俗（フォーク・ロア）の研究を進め、深めてこられたことがそのお話からうかがい知ることが出来ました。

王　媛　さん

王媛さんと聴衆

聞けば、大学での研究発表や学会発表は経験が有っても、いわゆる「講演」は生れて始めてとの事でした。とてもそうとは思えない堂々としたお話しぶりでした。これからも世界の有能な若い研究者にこのような経験の場を提供する事も国際比較文化研究所の役割の一つではないかと考えさせられています。

河童と稚児の研究成果語る
安中で王さん

NPO法人国際比較文化研究所（太田敬雄所長）主催の講演会が安中市の安中公民館で開かれた。中国から2002年に来日し、一橋大学院言語社会研究科に在学中の王媛さんが「河童と稚児の交差～民俗世界の童」と題して語り、約10人が聴いた。

王さんは駒引き、相撲取り、富の授与などに分類して各地の河童の話を紹介。安中市には尻を触る河童の話があり、「痴漢の元祖とする研究もある」と解説した。

さらに「河童は妖怪ではなく神。河童が小さいのは、小さな姿が神のシンボルだから。祭りの日に厚化粧して着飾る稚児も神そのもの、あるいは神の依代とされている」と共通点を指摘した。

また「神だけでなく、神の召し使いも小さな姿で現れる。童には子供だけでなく、奴隷や召し使いの意味もあり、河童に童の字が使われていることとの関係が今後の研究テーマ」と語った。

河童に関する研究成果を語る王媛さん

上毛新聞 2010 年 7 月 6 日掲載記

■ウンジュさん、学童を体験する■

今年の春の多文化交流 in 釜山で交流をした釜山外国語大学の学生の何名かは今、留学やワーキングホリデイで来日しています。その中の一人、ウンジュさんが７月２日に安中で開催された多文化交流の同窓会に参加。７名ほどの日本の学生達と一夜を太田家で過ごし、翌日学童体験をしてきました。日本語専攻を選ばなかったら幼児教育を選んでいたろうというウンジュさん。直ぐに子どもたちとも慣れ、学童の子ども達にとっての貴重な他文化体験となった。（写真：後列右から二人目がウンジュさん。）

『マナパルの理念』

記：まなぱる代表　太田琢雄（IIMS 副所長）

■まなぱる設立より早 10 ヶ月。一周年となる今年 **10 月の規模拡大**に向け、準備を進めています。現在金・土曜日のみ実施している『英会話くらぶ』『英語教室（高学年）』を平日にも実施する他、大人向け英会話カフェ（仮）や英語・数学（算数）などを複数指導員体制で教えるスタディホール（仮）の開設も検討中です。

若者達の成長支援活動、子育ての悩み相談等の活動も継続中であり、これらの活動は、子どもやご家族のメンタルケアも含め、地に足のついた活動をしていきたいというのが、開設当初からの願いです。現在はそのための土台作りをしている状況です。

ひとりでも多くの子どもたちに、成長の「機会」と「きっかけ」を。その願いを持って。

■まなぱるって、いろいろやってるけど、結局何がしたいのか？と思われる方もいるかもしれません。
お答えします。まなぱるは「多目的教育施設」です。一般的には「塾」と解釈されることが多いですが、**我々自身はここを塾とは定義していません**。『現代の子どもたちの成長において、勉強以外にも身につけるべき大切なものがある』私たちはこの信念を持って教育活動を行っており、英語教育などの学習活動は、あくまでその教育活動の中のひとつの要素でしかありません。

■では、現代の子どもたちにとって大切なものとはなんでしょう？
私の前職の高校は、普通高校に進学できなかった子どもたちや他の高校を退学になった子どもたちが通ってくる高校でした。私はここで本当に多くの「挫折を味わった子どもたち」と時を共にしてきました。ひきこもり、不登校、いじめ、素行不良、暴力、家庭不和、そして自殺･･･。本当に様々な子どもたちがいましたが、彼らが共通して抱える問題がありました。それは「コミュニケーション能力」の低さです。

現代の子どもたちが抱えると言われる**「コミュニケーション能力低下」**という問題。教育現場で子どもたちの成長に携わる者たちにとって、この問題が「子どもたちの問題」として括られることは大きな疑問です。子どもたちのみではなく、日本社会そのものが抱える大きな課題なのではないでしょうか。

例えば「ニコッと笑って相手の目をみて話す。」たったそれだけのことができれば、子どもたちは、何かしらの「生きる術」を見出していけるでしょう。他から受け入れられることにより、人は生き甲斐を見出すのですから！しかしどんなに勉強ができようが英語ができようが、コミュニケーションができなければ･･･彼らは、大きな壁に当たります。その壁は、非力な彼らの前に、高く、冷たく、悲しくそびえ立ち続けるのです。

コミュニケーションがとれて、人と繋がっていく。そうやって僕ら人間はきっと、人生の楽しみを見出していく。そう信じて、子どもたちに「コミュニケーション」の楽しさや、仲間がいる楽しさを伝えていきたい。愛される喜びを知ってもらいたい。それが**マナパルの行動指針**です。

■昔は子どもたちの成長の場として「家庭」「学校」「地域」という見事なトライアングルがありました。その中でも**地域**という場は、子どもたちが独自のコミュニティーをつくり、悪いことをすればしかってくれる人がいて、そんな中で**社会性を身につけていく大切なコミュニケーションの場**でした。しかし現代では残念ながら「地域」という成長の場は崩壊しています。保護者が子どもに、危ないから外に出るな。知らない人には近寄るな。そう言わざるをえない時代となってしまっています。

まなぱるは、この「地域」という立場で、他と『コミュニケーションをとって、繋がっていく』ことのできる、悩みがあれば『安心して相談』できる、そんな**成長の場所**でありたいと願っています。

『皆様へのお願い』
マナパルの活動のご理解頂き、ご支援・ご協力頂いている会員の皆様・地域の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございます！規模拡大に際し、今後もご寄付その他の援助は、運営上はもちろん、本当に本当に大きな心の支えとなります。何卒引き続き、ご理解・ご支援・ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。子どもたちの成長への希望と、この活動への期待にお応えできますよう、弛まず邁進していく所存です！

☆会費納入とご寄付のお願い☆

振込用紙を同封しますので、研究所の活動をお支え下さい。年会費は個人が２０００円です。研究所の活動のためにご協力をお願いします。今年度の会費未納の方にはその旨を記した振込用紙を、すでにお振り込み下さった方にはご寄付下さる方のために振込用紙を同封させていただきますが、決してご寄付を強要するものではありません。

研究所の活動は、出発時点では会員のための活動を主眼にしていました。しかし 10 年近くの歴史の中で活動範囲は多文化理解を外部の人々に積極的に訴えていく活動に変わりつつあります。皆さまにお支払いいただいている会費も、会の活動に実際に参加していただける方々のためだけではなく、会員以外の方々に働き掛けるための資金と変わりつつあります。多くの会の活動に参加出来ない会員にとっては、ニューズレター発行経費を除けば、会費は会の活動を支える寄付の様相を呈しています。その点をご理解の上研究所を支えていただければ幸いです。

マナパルの活動も、そのような新しい活動の一つです。今年の秋からはさらなる発展を計画しております。

インドネシア人学生招聘事業「多文化交流 in 関東」も継続します。このプログラムは全面的に皆様のご寄付に依存しております。日本語を積極的に学び、日本訪問を夢としてはいても、私費での来日は難しいインドネシアの若者達のために今年度も宜しくお願いします。

◇新たな会員勧誘のお願い◇　新しい会員をお誘いください。入会に条件はありません。国際比較文化研究所の活動に賛同し、年会費 2000 円をお支払いいただける方は、どなたでも大歓迎です。これからの世界平和実現を願って、御協力下さる方を募集しています。

会費・寄付（2010. 6. 7. ～2010. 7. 11. ）

＜敬称略＞

＜新入会員＞　植原 efa 映子、内田瑞穂。　今回より多文化交流プログラム参加者は新入会員とさせていただきます。釜山プログラム参加の新入会員は次の方々です。岩瀬裕理子、荒井美里、浦瀬慎也、大場賢太、阿部優紀、落合清香、瀧川咲、江口瞳、飯島麻理、飯塚みやび、岩丸愛、木村暢、中村亮太、羽田敬宏、舟木輝が参加の予定です。新潟、群馬、東京、焼津の若者達です。

＜会費＞ 佐俣由香（前号に記載すべき所、洩れてしまいました。失礼しました。）木村隆、木村眞理子、伊藤成、須藤勲子、阿部昭子、鈴木瑠璃子、高山有紀、山崎恵美子、森泉寿義雄、小倉寿、小柏桂子、丸山武子、水口和子、青葉由香、胡麻鶴はるみ（09, 10）、二村摂三、板垣剛（09, 10）、正田智美、伊藤優子。　有難うございました。研究所の活動を支え続けていただきありがたく感謝しております。研究所は皆さまに活用していただける研究所となるよう頑張ります。その活動に対して皆様の忌憚の無いお声をお寄せ下さい。（注：特にカッコ記載のない場合は 10 年度分です。）

＜「インドネシアより招聘」「多文化交流 in 関東」指定寄付＞御協力有難うございます。　伊藤成、須藤勲子、阿部昭子、永田強一、伊藤優子。今年度も是非インドネシアからの招聘プログラムは継続して参ります。次回の「多文化交流 in 関東」（と名称を変更して実施しました）にこれまでにも劣らぬご協力をお願いします。

＜マナパル　指定寄付＞伊藤成、木村隆・眞理子、須藤勲子、阿部昭子、永田強一、二村摂三、伊藤優子。マナパルはさらなる飛躍を準備しておりますなか、心強いお支えに感謝します。教育活動の支えとして有効に活用させて頂きます。

＜一般寄付＞　須藤勲子、阿部昭子、高山有紀、大塚正子、丸山武子、神保松江、胡麻鶴はるみ、Ｓ・ジュティーン、板垣剛、伊藤優子。有難うございます。必要とされる所に有効に使わせて頂きます。

編集後記：この号には間に合いませんでしたが、次号以降、国際比較文化研究所を支えていてくださる会員の皆様にインタビューさせていただき、掲載して参りたいと計画しています。インタビュー記事以外にも、会員の皆様の活動報告を寄せていただければ、会員同士のつながりにもなると期待しています。子育て記でも、旅行記でも、活動記録でも。ショート・ショートに限定されますが、フィクションでも詩でも、結構です。そこから会員のつながりを強めて行きたいと願っています。（T）

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮３４１３－３
電話：027-382-5998　FAX：027-382-6393
e-mail：mtharunac@xp.wind.jp
HP：http://www8.wind.ne.jp/mthac
郵便振込口座番号：00510-0-61974　名称：国際比較文化研究所